

三重県御浜町において県内初の「臨時災害放送局」の開設・放送訓練を実施

東海総合通信局(局長:長塩 義樹)は、令和3年11月14日(日)、御浜町立御浜中学校で開催された「紀伊半島大水害10年防災訓練」に参加し、三重県、御浜町、一般社団法人日本コミュニティ放送協会(以下「JCBA」という。)東海地区協議会、株式会社シー・ティー・ワイと連携して、三重県内では初めての臨時災害放送局の開設・放送訓練を実施しました。

開設訓練では、御浜町職員が御浜町災害対策本部から訓練会場の当局職員へ電話連絡し、臨時災害放送局設備の借受と免許を申請、当局職員が放送設備の貸与の承認と臨機の措置により免許するまでの手続を確認しました。その後、当局職員からJCBA東海地区協議会事務局へ電話連絡し、本年3月に当局とJCBA東海地区協議会との間で締結した「災害時等における協力体制に関する協定書」に基づき、臨時災害放送局による放送の遂行に必要な人員の派遣や機材の貸与等の協力要請を行う口頭模擬訓練も併せて行いました。

放送訓練では、当局が搬入した放送設備を使用し、午前9時30分から12時まで、周波数は79.5MHz、電力は10Wにて、実際に電波を発射して訓練を実施しました。また、JCBA東海地区協議会及び(株)シー・ティー・ワイからの協力を得て、気象予報士と防災士の資格を持つパーソナリティによる、訓練会場内のブースの紹介、気象に関する防災講座、安否確認の方法や避難生活の留意点等の情報を、町長インタビュー、住民代表インタビュー、中学生代表インタビューなども交えて放送する訓練を実施しました。

訓練会場にはモニター用ラジオを用意し、参加住民の方に実際の放送を聴いていただき、臨時災害放送局に関する感想やご意見などを伺いました。アンケートにご協力いただいた方全員が「災害時に臨時災害放送局があると良い」と回答、「放送局(臨時災害放送局)がこんなに早く開設されるものとは思わなかった」「防災意識を高めるために(臨時災害放送局を使った)訓練を継続してほしい」との声も寄せられました。

東海総合通信局では、今後も災害時における住民への情報伝達手段としてのラジオの有効性を多くの自治体の首長にご理解いただくため、来年度の各県総合防災訓練における臨時災害放送局開設訓練の実施提案を行うなど、積極的に防災に係る取組を進めていくこととしています。

〈アンケート結果〉

- ・「臨時災害放送局」を知っている : 29%
- ・災害時に備えてラジオを用意している : 63%
- ・災害時に臨時災害放送局があると良い : 100%

〈参加者の声〉

- ・「防災意識を高めるために、(臨時災害放送局を使った)訓練を継続してほしい」
- ・「放送局がこんなに早く開設されるものとは思わなかった」
- ・「災害時にぜひ力を貸していただきたい」

お問合せ先: 防災対策推進室 052-715-5008



【当局が搬入した臨時災害放送局設備】



【御浜町長へのインタビューの様子】



【東海総合通信局防災対策推進室長へのインタビューの様子】